

まちの話題

▶夏頃から「共生」という言葉が頭に残っていた私に、共生革命家ソーヤ海くんの「共感コミュニケーションWS」に参加する機会があった。WSの中で「食べること」をテーマに思い浮かぶ言葉を一言ずつ出しあったとき、「奪うこと」もあるとソーヤくん。そこから発想する言葉を共感し合うのではなく、誰もが共感し合える言葉を使うこと、これが共感することの前提条件▶子どもの参観日で、大切と思うことを挙げて分かち合うことがテーマのグループ討議。家族、食べ物、家、おこづかい等々。さらに過酷な状況に暮らす世界中の子ども達のスライド(少年兵や児童労働)を見せ、何が大切かの価値観はみんな違うのだとまとめた。日本は平和で良かったと子ども達の意見が出て授業終了。今、本当に日本は平和な社会なのか!?モヤモヤしたものを抱えつつ、こんなふうなクラスの友達同士で、家庭の中で、集まりの中でそれぞれの意見を聞き合うことって貴重な時間かもしれない。まずは共感するためのコミュニケーションの場があること!▶11/29近江八幡で開催されたくらしとせいじカフェには、社民党、共産党、民主党の議員さん達が集まった。参加者からは野党共闘についての質問や意見も飛び交う。それぞれの意見を聞くことは面白く、学ぶことも多い。これはまさに共感コミュニケーションの場じゃないか。良い方向へ吹く風の流れは早いと感じる今日この頃。(宮内弥生)



声をつなぐ市民ラジオ  
ことばにする、  
耳をかたむける  
AMAIRO  
CHANNEL  
あまいろ  
チャンネル  
http://www.aoiwako.org/amairo-channel/

あまいろだより(天色便り)  
あまいろ探偵団、走る!手づくり市民メディア  
第25号 特集:これからのビジョンを語り合う  
発行日/2015年12月15日  
編集/あまいろ探偵団  
(綾牧生・岸田知之・北岡七夏・  
きむきがん・中野和子・藤井朋子)  
\*\*\*\*\*  
発行/特定非営利活動法人碧いびわ湖  
~大切なことを他人任せにしない。  
自分たちで力をあわせてつくる~  
〒521-1311滋賀県近江八幡市安土町下豊浦3番地  
TEL 0748-46-4551 FAX 0748-46-4550  
info@aoiwako.org http://aoiwako.shiga-saku.net/

子育て広場、やっています♪  
~子どもの野外遊び×親のおしゃべり~  
\*毎月第2・4月曜日  
\*守山の目田川or栗東のたまてばやしにて  
基本第2月曜はたまてばやしにて、第4月曜は目田川にて行きます。但し、天候や諸事情により変更になることがありますので、碧いびわ湖のブログにてご確認ください。  
表紙タイトル/岸田知之  
\*kikito びわ湖の森を元気にするkikitoペーパーを  
biwako-no-mori 使用しています(びわ湖の森の間伐材活用)

暮らしのコラム

保健師さんから協力を頼まれて、彦根市で「ほっこり」という、主に認知症の家族を抱える介護者のつどいを続けてきた。認知症特有の混乱は身近な家族に向かって一番強く発せられる場合が多いので、介護する家族の心労は並大抵ではない。つどいは14年目に入り、参加される方は次々入れ替わっていくのだが、延べにすると相当な数の介護者のお話を、同じ苦労を味わった者として聴いてきたことになる。

つどいを続けてきた中で心がけてきたのは「愚痴や泣き言を言ってほしい!」ことだった。間違っても「私はこんなにうまく介護しています」という自慢合戦にはしたくなかった。経験者が教えてあげられることは確かに有る。ところがそこに「こうした方がいいと思うよ」とか「私はこうした」という先輩オマケ?も付いてしまいがちだ。しかし、介護初心者が後で話してくださったことを振り返ると、アドバイスよりも「自分と同じように苦勞している人がいる」と、そして「自分よりもっともっと大変な介護をしている人がいる」ことが心に残っていることが多い。話を聴いて一緒に溜息をつくほうが、アドバイスよりも慰めになるのだ。

愚痴や泣き言にも個人差がある。口を開けば泣き言ばかりの人から、決して愚痴を言わないことで、崩れそうになる自分を必死に保っている人まで様々である。一概に男性は後者が多い。心を開いて、うまく対応できない自分の弱さを誰かに言うのは、案外勇気がいる。凛として愚痴を言わないのは一見かっこよく見えるのだが、本当に強いとは言えないかもしれない。長期間に及ぶ介護では、そういう人の方がストレスを溜め込み、潰れやすい。奥様を介護されていたA氏が、つどいで最初の頃に言われた言葉を思い出す。

「介護はどんなに大変でも全部僕の思ったようにやります。それが妻に対する長年の感

介護について・2

Haha

謝とお詫びの気持ちだと思っているから。手伝ってもらわなくていい。よくやっている僕を褒めてほしい。ただそれだけ。そのうち夫人の病状が進み、部屋のあちこちで失禁したり、気にいらないと手当たり次第に食器や調度品を壊すようになり、徘徊も始まった。どんどん手に負えなくなるにしたがって、A氏の介護自慢はかけをひそめた。それでも弱音を吐くことはなく、それは夫人の言動を強い口調で非難するというかたちをとるようになった。毎回、飽きることなく自分の妻への悪口雑言が繰り返され、「困った。僕はもうどうしていいかわからない」と弱々しくつぶやかれるようになったのは、もう少し経ってからだった。そういう私も、母の介護で愚痴は言いたくないと突っ張っていたひとりである。そして自分自身が壊れる直前になって、初めて周囲に助けを求めた。その時つくづく本当の強さとは何かを知ったのだ。

「介護をひとりで抱え込まないで!」というのはよく耳にする言葉だ。社会的な制度の不備や、地域によって根強さの残っている偏見など、開かれてほしいことはますます必要度を増している。それと同時に自分を開くこと、そしてうまくやれない自分を少し笑って受け入れられるようになること、勇気をだして「私を助けて」と誰かに言えることなども、長期の介護には何より大切な知恵だと思う。

現実的な日々の介護に関していえば、私にとって何より強いストレスは「臭い」だった。哀しいかな、私の最大の弱点はそんなところにあったのである。

\*\*\*\*\*  
Haha...彦根市介護家族の集い「ほっこり」代表。詩人。詩誌「yuhi」主宰。



あまいろだより

これからの  
ビジョンを  
語り合う

天色便り  
あまいろ探偵団、走る!  
手づくり市民メディア  
第25号 2015.12.15

碧いHand in Hand プロジェクト  
今、びわ湖から沖縄へ

辺野古という私の分岐点

西村しずえ

10月26,27日 辺野古新基地建設反対海上行動とゲート前行動に参加したしずえさん。母として、自分としてここへ。つながら命をぎゅっと握って。

そこに座る人たち、カヌーにのり、船を出す人たちは「平和活動家」ではない。

仕事も生活も家庭もあり、つまり「暮らし」を送る普通の人たちが抗議のために基地ゲート前に通い、また海に出て抗議する画像を観たのが最初だった。そこまで生活や自分を犠牲にする理由がわからなかったその初見から、1枚ずつ本のページをめくるように、なんの為の抵抗、抗議、対峙であるかが見えてきて、知るほど、無知であったことがたまたまなく、自分は遠い地で日常に追われるだけ。国の暴力に対峙する恐怖も直接味わうことなく、「頑張る」「気をつけて」という言葉はどうしても使えなかった。現場に行けず、詳しいことも知らない自分には基地問題を語る資格はない。と、行けない状況を悔しく思う時期も正直あった。

でもそれは違って、行かずともここに居て考え続けることや、できることはある。わたしはこの場でそれを探せる」と、できる限りのこと考え、やっていたそんな時に巡ってきたまさかの辺野古行き。旅は五感を以ってそこで起こる全部と自分が向き合い、これからの行く道、究極の部分で自分

の腹が決まっていく「大きな時」となった。

少し話は逸れるが、ゲート前を離れる夕方、片付けも終わりほとんどの人が居なくなって帰るまで少し待つ時間があつた。テントから車道を渡って基地へのゲートがある。入り口に米軍の守衛が立っているのを見ていたら、何故か足が動き車道を渡りフェンス越しで米軍にひとり向かって、『we shall overcome』を歌いだした。止まらなくなった横でひろじさん(\*)と一緒に歌ってくれた。その時のなんとも言えない心強さに、自分のつたない音楽技術に拍手はいらないのだけれど、拍手のためではない場所に自分の音楽を注ぎたいと思った。

最後に。これは沖縄だけの問題ではないことははっきりしている。日常を守る為に基地を許さない意味を知ってほしい。また「日本各地から連帯する」という心強さをどうか知ってほしい。それはつまり自分の何気ない幸せな日常を守る為で、そのためにできることをともに探してほしいと心から思う。

(\*)ひろじさん...山城博治。沖縄平和運動センター議長。

\*\*\*\*\*  
西村しずえ...ひとつぶてんとう園主宰。二児の母。近江八幡市在住。

蟻の牙

ありませんか?生活の中の、これだけは...というこだわり。小さいことだけど、私一人やっとならなくていいかもしれないけれど、でもやっぱりこれだけははずれない...というこだわり。小さいけれど、痛く突き刺す、「蟻の牙」のようなこだわりを紹介いたします。

土に環をのり捨てる

小さい頃から生ゴミを畑に埋めて土に還すのが当たり前のようにつつたおかげで、生ゴミをゴミ箱に捨てることに抵抗感があり、今でも庭に穴を掘っては埋めるのが習慣になっている。さらにここ数年は庭木の剪定時に出る大量の枝葉も細かくして庭に敷き詰めるようにしている。そうすると土もむき出しにならず雑草も生えにくく、踏み心地も森の中のようがいいのだ。そこでは、比喩的な意味ではなく文字通り「蟻の牙」が大きく活躍していることだろう。

喜多亮夫

# これからの ビジョンを 話そう

暮らしや生業のこと、政治のしくみやこれから世の中のこと。  
未来を支える世代となる三十代の彼らはどんなふうに考えてるんやろう？瀬田駅前のボードゲームカフェ『Relio』にて、あまいる探偵団が三人の若者とそんなことなど、おしゃべりしてきました。



安藤克也…愛称は「アマタ」です。あんこ好き。

山田拓哉…栗東市走井で「Harves-Ta HASHIRI」を主催。

河合資…最近、古民家暮らし始めました。

河合資(以下タスク) / 瀬田の駅前でグリーンキッチンというオーガニックカフェをやっていた、タスクです。その店も三年で一旦区切りをつけて閉めたんです。  
**根本山(碧いびわ湖)** / なんて閉めたんですか。タスク / 街のデザインをすることや豊かな暮らしをテーマにしながらやってきて、お客さんたくさん来てくれて回っている一方で、いっぱいはいない自分がいて、メッセージを伝え続けるには、こっちも体力や気力をかなり消費するんです。いいバランスで続けていくのが難しいけど、そのへんを模索中で、これから色々見えてきたいと思っています。  
**安藤克也(以下アマタ)** / 野洲でデザイン事務所構えています。安藤です。続けられるデザイン事務所を体験していきたいというのがずっとあって、スタッフは残業なし、週休二日で、やっています。

**綾牧生(あまいる探偵団・以下牧生)** / すていね、デザイン事務所ってお客さんありきで、働く人にとってはめちゃくちゃな業界というイメージが。  
**アマタ** / そうそう、サービスマン残業当然の厳しい職場が多くて、三十歳くらいでみんな悩んで辞めていく。僕も一回体を壊しました。独立して十一年目になりまして、**山田拓哉(以下拓哉)** / 栗東と草津で有機農業しています。やおよぶ山田です。僕は独立して五年目くらい。農業をやりたいきっかけは、WMOOハウスでオーステリアに行ったことです。その時体重が百十キロあったのが、お世話になったビーガン家庭で三十キロくらい落ちて、マインドもすごい変わったんですよ、イライラしなくなりました。食事の大事さを痛感して、自分の食べるもんくらい作りたいなと思って、実家の畑でやり始めて。バイトしながらやり方学んで独立したという経緯です。

## 今何を考えて、働き、暮らしている？

**根本山** / みなさん独立の事業されていますが、事業を続けるためには経済として回っていかなくちゃいけないということ、自分の価値観やビジョンとのバランスの取り方とか、三十年後こんな感じでやってほしいというのを聞かせてほしいです。  
**タスク** / さっき言ったとおり模索中です。店閉めたことを心配されるけど、僕はいつでも再開できるって気持ちでいる。心強いのは、周りのメンツがどんなにブラッシュアップしていても、自分らのやり方を確立しているところ。反応してくれる若い世代の「野菜おいしいっすね！」って言葉を聞くと、やっぱり嬉しいし続けていきたいなと思います。いろんなかたちで、  
**拓哉** / 僕らでも例えば、農業使ってガンガンいっぱい作ろうと思ってるんですけど、やりたくない。例えば天災があつて野菜が取れない時のリスクをどうするかとか、常に自分らの体力でカバーしなければならぬ状況、いつまで続けられるのかなあって。栽培の技術が上がっていても天災にはかなわないんで、そこはハラハラしています。今後やりたいことっていうと、僕最初は、自分ももっと有機野菜作ってみんなに広めなかんがえてたんですけど、今は農家だけじゃなくみんなが作った方がよいと思っていて。これまでの経験を活かして、その手助けできたらいいなと考えてます。

**福島** / 原発事故のとき、多くの人は土壌が汚染された怖さを感じてないんだと思うんですけど、それって日常的に土に触れてないからだと思うんです。で、畑したいけど場所がないってなりがちですけど、コンクリートばかり敷地でも野菜作って作れるんです。柔らかに育て、楽しく作っていけるような仕掛けができたらいいなと思ってます。  
**アマタ** / デザイン事務所って十年続くことってあまりないらしいんです。僕ブログをずっと書いていて、それを読んで共感してくださった方と県内外問わずにお仕事をさせてもらってます。仕事なので価格もありませんけど、まずは人を選ぶようにしています。デザイナーの仕事って会社内で決定権持ってる人たちと直接お話をさせてもらえます。お金もさながら、リアルな経営を目的の当たりにできる。いろんなお客さんと接しているうちに、うまくいっている会社に共通する普遍的なものが見えてくるんです。やっぱり社内の人とか周囲の人を大事にする会社は、目立たないけれども足元がものすごくしっかりしている。僕はそういうスタンスの方が好きなんです。お客さんとの関係性というところ、一緒にお風呂入れる人がいいなって。  
**同 / ええー!**  
**アマタ** / 信頼してくださるところから始まることばかんどんなんですよ。関係性ができていままに打ち合わせしても、どつかに足がつかない話になるじゃないですか。でも、風呂入りながらしゃべっている会話って、いいんですよ。  
**タスク** / 僕の印象では、お客さんをおんなじチームにするんですよ、信頼関係の中で。そうすると、めっちゃスムーズにことが運ぶんですよ。  
**拓哉** / それってむしろ大変そうに聞こえるんですけど、お客さんに密に連絡を取れば取るほど、コストは上がっていくじゃないですか。もっとパンパンと終わらせば早く終わるのに、あえて密にやっつて、ということですよ。  
**アマタ** / 好きじゃない人にプレゼント探せないでしょ？ちゃんと知れば知るほど内側からああそうだなって言うのが出てくるんで、デザインの仕事する僕にとってはそっちの方が楽ですね。  
**拓哉** / その感じだと、一緒に温泉入る方が感覚が共有できるという…  
**アマタ** / そうそう、感覚が共有できるから好きがわかる。その人を感じられる機会をいっぱい用意するわけです。  
**タスク** / そっちの方が意味エネルギーがかからへんのかな。  
**アマタ** / 関係性が途絶えないんで、やればやるほど熟していく、それがぼくは楽しいんです。

## 社会を変える力にどうつながる？

**藤井朋子(あまいる探偵団・以下朋子)** / あまいる探偵団としては、私たちが言いたいこと言ってるだけじゃだめだよなって。色んな人が色んな立場の中で感じて、そんなレスポンスを得ながらぐるぐるって学びの連鎖や新たな実践が生まれたらというイメージがある。そういうところに次のステップとしていけたらいいな。

**北岡七夏(あまいる探偵団以下七夏)** / 私たちは「自分たちでつくる市民メディア」について考えてるんですけど、何かアイデアがあったら聞かせて欲しいです。  
**根本山** / こういふふうには、いろんな考え方を持つ人が集って話すというところもメディアだなと思っていてそれを構成して紙面に配るのが今ややることなんです。でも半年後には参院選がある。そこに影響力をもてるかどうか。

**タスク** / あく周りの人だけではなく、一つ越えて全然関係のない人までどうやって届くかということね。

**拓哉** / 僕、例えば政治にあまり関心のない昔の友達とも関わるようにしてるところあります。歳も近いしちょっとした政治の話になったりするんで。スタンスが完全で逆で、けつう白熱しますよ。

**拓哉** / そうつながる違うコンテンツがあるからね。**タスク** / そこで世代が違うと、上から言われたとか、「下からなに言ってるんかね」となりがち。例えば下の層に訴えたいと思ったら、このパワーをもういっこ下の世代で作るとか。

**岸田知之(あまいる探偵団・以下知之)** / 夏に安保法案に反対する運動をつつたSEALDS(シールズ)とかね。自分たちが彼らのやり方に対してどうこういうよりも、それはあの世代のやり方であつて、じゃあうちの世代はなにやんの？というのをそれぞれ考えたりとか。  
**タスク** / もちろんそこに参加するのはいいんですけど、その世代の子にはできない自分らの世代の役割もあるはずってことを意識しなきゃ。

**拓哉** / 世の中を変えるようとするアプローチの仕方はいろいろありますね。でもそのために暮らしを変えないとあかんし、この両方しないと結局変わらんのかなと思う。だから、仕事もできるだけ環境負担が少なく、意識の変化を人に与えられるような仕事をしつつ、政治にもコミットしていけたらいいかなと思いつつ、今バランスを取ろうと模索しているところなんです。

**七夏** / 答えはないし、これが正しいという道はひとつじゃないけれど、一歩ずつ…  
**拓哉** / しかも変わったって分かるまでめっちゃ時間かかることばっかりじゃないですか。心折れそうになりますよ。  
**アマタ** / 自分だけが満たされて満足するって怖いじゃないですか。一見相手のためになっているけど、  
**拓哉** / 例えば、家族のために働いてるんだっていう。アマタ / 本家に家族のために働いてるんじゃないけど、  
**知之** / それで自分を納得させるためにそう思ってる。

**中野和子(あまいる探偵団・以下和子)** / じゃあみんなのゴールは何？  
**タスク** / 僕は、みんな健康であること、ですね。ほんまの意味で「健康的」なことみんなが気づくということ。だからビーガン、オーガニック、ローカルみたいなものをカジュアルにしていきたい。それを進めるにはまず自分の健康な体っていうのが絶対条件と思ってる。だから、食生活っていうのは大事だなと思っし、いるんなところの影響がでてるって思っています。で、それが自分ができる、現実的なことだな。

**アマタ** / ぼくは、世の中自信のない人が多いけど、それを気にしなくていい世の中だいたいなと思っしよ。能力の優劣で人を判断してしまう世の中って残酷で、頑張りたくても頑張れない人もいる社会で、「男っばい」ところでぶった切られること多いんで。もうちょっと許容がある社会になればいいなと思っしよ。  
**拓哉** / むずかしいけど、今の社会ってなんに關しても

判断基準が経済に寄りすぎてる感じがある。もちろんお金も大事やけど、もっと対等にフラットに考えて決断していきける世の中かな。

**アマタ** / 和子のゴールは、やっぱり皆が幸せな世界かな。一人も不幸な人がいない世界。

**根本山** / 和子さん、カナダに十年くらい住んでたじゃないですか。日本との違いって何かあります？

**和子** / 日本では「デモはやっても変わらん」って意見があるけど、カナダではデモしたら変わるねん。署名したら社会が変わるねん。日本も、私たちが声を上げたら社会が、政治が変わるといって社会になったらいいなと思っしよ。

**拓哉** / それはデモの裏で誰かが色々動いているのか？  
**和子** / ないない。政治をする人たちが、「自分は民衆の代表だ」と思ってるんだよね。

**アマタ** / カナダの人たちは自分たちが豊かだっていう認識があるんですか。

**和子** / あると思う。自分たちの身近に悪いお手本が、アメリカにいるじゃないですか。だから自分たちは銃は持たないし、公的な健康保険もあって高額な医療費を払わずに医者にかかれる。  
**知之** / アメリカがせつばつまつてるのを間近に見て、緊張感があるんだろね。翻って、日本は緊張感がない。それがいかにシビヤな状況かを、どつ伝えるか。

**和子** / あと「私たちが移民なのに、なんで移民を排除するの？」っていう市民の良心がある。

**拓哉** / やっぱみんな主體的なですかね。自分が一人の国民やっつて。

**和子** / 「自分でものを考えてる」。人たちの数は違うと思う。

**タスク** / 動いたらレスポンスが返ってくるっていうのは大きいですよ。  
**和子** / 日本人で「どつちがいい？」って聞かれた時に、「どつちでもいい」って思っつけれど、カナダで、そんな自己主張の強いタイプではない人に、「それでもどつちでもいい」って思っつことあるでしよ？

「どつちでもいい」って思っつことあるでしよ？  
**知之** / いい悪いじゃなくって、「レスポンス」の問題かなって思っつ、「責任」って、日本では「人に負わされること」っていうイメージが強い気がして。英語では責任を「レスポンス」って言うけど、直訳的には応答能力のことだね。だから、本来は単に「自分の態度を明らかにする」ぐらいの意味なんじゃないかと。日本では何か問題があつてから、「責任を取れ！」ってなることが多いけど。いやその前に「あなたはどつちなの？」ってことに答えられるのが、本当の「責任」なのかなって思っつ。そういう意識が薄いから、デモとかも参加できないし、世の中も変わらんや。

**山田** / 色がつくのを嫌がりますよ。

**知之** / そう、逆に色がついていじゃんって発想がないかな。

**タスク** / どつちでもいいでまかり通っつちゃう分、日本はまだ豊かんですよ。

**拓哉** / 誰かに決めてもらおうっていうのは確かにあるかもしれない。

**アマタ** / じゃあ、締め、ネギさん。

**根本山** / とてもいい話でした。

**アマタ** / そんな笑点おひらきみたいな締めでいいの？